



「沖縄観光的に思うこと⑤」 「沖縄的金融」

今から20年前に戻って、20年後の未来（今）を振り返ると、その時は到底想像し得なかった世界になっていると思いませんか？であればいつそ、人に笑われるほど大胆な予想を試してみよう：僕は今まで事業戦略を構想するときには、こんな風に考えてきました。そこで、今後20年の沖縄の金融戦略を練ってみました。

① サブプライムを期に、アメリカ経済は100年のピークを打ったと思います。世界金融の主導権は、ウォール街から香港を中心とした東アジアにシフトするでしょう。沖縄は「世界金融の中心から最も近い日本」になるでしょう。

② 金融専門家、資本市場、証券取引所の非効率性が明らかに、企業金融の主導権が事業会社に移行するでしょう。もともと株式市場というのは甚だ非効率な資金調達です。突き詰めて考えると、世の中のお金の大半は個人が保有し、そしてその大半は企業が調達するにも拘らず、資本市場を通過するというだけで、企業利益のざつと4割が消えてなくなるイメージです。反面、企業も社会から全くといっていいほど信用されていません。無防備なくらいオープン



ンで正直な経営者であれば、市場を過ぎずに直接資金調達が可能になる。そんな、人肌に近い「金融市場」が沖縄に生まれるでしょう。

③ 経済で一番大切なことは、「お金を人の役に立つように使うこと」であるはずなのですが、事業家の99.9%はいかにお金を増やすかに関心があります。日本には、「お金を増やそうとすることを放棄すると、とてもお金が増える」という原理を事業再生に応用した、二宮尊徳という偉人がいました。彼の「五常講」は、低利子の貸付事業で、グラミン銀行のしくみにちよつと似ています。人間関係が「信用」で、お札の気持ちさが「利子」、という人間中心の金融事業が沖縄から生まれるでしょう。

樋口耕太郎 (ひぐち・こうたろう)
岩手県盛岡市出身。
1989年野村證券株式会社入社。2001年株式会社レーサムリサーチ取締役。同社のホテル事業戦略を立案し、2003年グランドオーシャンホテル(元オーシャンビューホテル)、2004年サンマリーナホテルの代表取締役社長に就任。2006年リゾートホテルなど「労働集約的サービス事業」の事業再生を専門とするトリニティ株式会社(www.trinityinc.jp)を沖縄で創業、代表取締役社長。沖縄在住、43歳。